

令和2年7月15日

盛岡商工会議所実施検定試験 新型コロナウイルス感染症拡大防止 ガイドライン

本ガイドラインは、検定試験の実施に当たって、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施するように努めるべき具体的な事項を、「民間検定試験等の実施における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン※」を参考にとりまとめたものです。

なお、本ガイドラインは2020年7月15日現在の状況に基づくものであり、今後、適宜更新いたしますので、ご留意ください。

1. 試験会場での取組み

- (1) 受付や休憩室等で受験者同士が接近せず、十分な間隔をとることができるよう誘導を行う
- (2) 受験者に対して検温を実施する
- (3) 会場入口へのアルコール等消毒剤の設置等、手指の衛生を保つことができる環境を整備する
- (4) 「新しい生活様式」において、人との間隔はできるだけ2メートル（最低1メートル）空けることが推奨されていることを踏まえ、配席の工夫（最低1メートルを目安）や会場ごとの受験者数の制限収容定員の半分程度以下等により、受験者相互の身体的距離を確保する
- (5) 入口の開放、窓の定期的開放、空調設備の適切な使用等により、換気を確保する
- (6) ドアノブ・机・椅子などの定期的消毒を徹底する。同一教室で別の試験を開催するなど、異なる受験者がその教室を使用する場合は、時間間隔を問わず、新たな受験生の受入れ開始前に消毒を行う
- (7) 試験実施中に発熱等の発症者が出た場合に備えて下記の対応を行う
 - ア. 感染者や感染の疑いがある者が発生した場合に備えて、あらかじめ所轄の保健所との連絡体制を整えておく
 - イ. 発症者を速やかに別室に隔離して受検を中止して帰宅させ、部屋の換気を行うなど、具体的な対応を定めておく
- (8) 受験者名簿には必ず緊急連絡先を把握して記入し、受験者に対して名簿記載の個人情報が必要に応じて保健所等の公的機関に提供され得ることを事前に周知する。

2. 試験スタッフへの取組み

- (1) 試験当日の検温及び確認
- (2) 試験会場におけるこまめな手洗い、アルコール等による手指消毒の実施
- (3) 試験日前2週間における以下の事項の確認
 - ア. 37.5℃以上または平熱を1℃以上超える発熱
 - イ. 咳、のどの痛みなどの風邪の症状
 - ウ. だるさ（倦怠感）、息苦しさ
 - エ. 嗅覚や味覚の異常
 - オ. 身体が重く感じる、疲れやすい等
 - カ. 新型コロナウイルス感染症陽性と診断された者との濃厚接触の有無
 - キ. 同居家族や身近な知人等の感染が疑われる者の有無
 - ク. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とする国、地域等への渡航又は当該国等の在住者との濃厚接触の有無
- (4) 会場でのマスクの着用、入場時及び資料配付時の手指消毒

3. 受験者へのお願い

(1) 受験に当たっての依頼事項

ア. 「新しい生活様式」の実践例（※別紙参照）を参考とした感染予防

イ. 以下のいずれかに該当する場合の来場見合わせ

①試験当日に37.5℃以上または平熱を1℃以上超える発熱、咳・のどの痛みなどの風邪の症状、だるさ（倦怠感）、息苦しさ、嗅覚や味覚の異常、身体が重く感じる、疲れやすい等のいずれかの症状がある場合

②過去14日以内に新型コロナウイルス感染症陽性と診断された者との濃厚接触がある場合や同居家族や身近な知人等の中に感染が疑われる者がいる場合

③過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とする国、地域等への渡航又は当該国等の在住者との濃厚接触がある場合

ウ. 盛岡商工会議所ホームページで随時公開される試験実施情報の事前確認

(2) 会場における依頼事項

ア. 入、退室時の手指消毒やこまめな手洗い

イ. 会場内でのマスク着用

ウ. 受付時の最小1m間隔での整列

エ. 入・退室時の密集回避

オ. 受験者同士の会話の自粛

カ. 休憩・食事スペースでの密集回避

キ. ゴミの持ち帰り

ク. 受験者に感染が疑われる者が出た場合等に保健所等の公的機関へ個人情報提供される場合があることの承諾

ケ. その他試験会場での感染拡大防止措置への協力

【参考文献】

※「民間検定試験等の実施における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」
(2020.6.19改定版)

<https://www.zenken.or.jp/newsletter/1549.html> (参照 2020-07-15)

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



密集回避

密接回避

密閉回避

換気

咳エチケット

手洗い

(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク